

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501293		
法人名	有限会社 レモンの里		
事業所名	グループホーム・ レモンの里		
所在地	三重県津市神納418-1		
自己評価作成日	25年2月1日	評価結果市町村提出日	平成25年5月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigekensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2012_022_kani=true&JigvosvoCd=2470501293-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 2 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『健康とオープン』を基本理念とした、自由で豊かな暮らしの実現。 ホームで家族に見守られ、よい最期を迎えていただくための工夫と実践。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所名のレモンの里の名前の通り、レモンの木が植えられた果樹園は四季折々の収穫の喜びをもたらしている。一方、「健康とオープン」の基本理念から、具体的実践例として、健康面では玄関スロープを廃止し注意力や筋力をより引き出すための工夫を試みたり、オープンで自由な精神を引き出すために楽器演奏や歌を歌うなど、音楽を通した心の解放に努め、回想法から探った利用者の想いを未来法として実現するなど、さまざまな取り組みを実践しつつ、人生を最後まで生き切ることを目指した生活ができるよう日々支援をしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外出支援・地域交流・コンサートの実施・実習生の受入れ・外部職員の研修受入れなど実施している。理念を『健康とオープン』に集約し、その実現にはどうすればよいかを常に話し合っている。	「健康とオープン」の理念の元、認知症の人という観点ではなく、同じ「人」としての立場を基本に、日々楽しみをみつけ共に過ごす生活を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・老人会・神社祭礼・保育園との相互訪問など積極的に取り組んでいる。無断外出にも地域の人に対応していただけるよう依頼している。各種講演・研修会での講師をして地域に発信している。	老人会や自治会、保育園との交流や近隣の地域の方への研修会を開催するなど、日常的に地域と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者や、認知症のお年寄りを抱える家族の相談に乗っている。認知症に関しての理解を深めてもらうことで、家族の精神的負担が減少し、喜んでいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見・報告を大切にし、具現化に努めている。家族との旅行。こども110番の旗を設置。他のデイサービスとの交流を行っている。	リビングで利用者も参加した運営推進会議を開催している。年度初めに事業計画をたて、写真による実践報告で参加者全員に分かりやすい会議をして意見交流を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者に運営推進会議に出席を求め、交流を進めている。三重短大での講演・高田短大・専門学校の実習生受け入れなど実施。県の行う研修会の講師も行う。	新規事業所職員の研修や迷い人の保護など、市のみではなく、警察などとも連絡を密にとり、問題に応じて行政と常に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠をしていない。身体拘束以前に心のケアが必要であることを職員が自覚しており、身体拘束をしないで済むケアを実践している。	玄関だけでなく窓にも施錠せず、自由に出入りができるようにしている。入院による拘束ダメージを受けないように、入院時にも付き添いを行い、早期退院を目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種資格取得・研修会参加を通じ学習し、それを職員間でも常に話し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度説明会・三重県福祉セミナーなどに参加。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等は十分な説明をしている。 事前に本人が見学し、一緒に食事をして、本人の希望を確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を活用している。 代表者と管理者・職員が即決で運営に反映させている。 家族旅行などの場で自由な意見交換を行っている。	家族旅行に代表者が同行したり、突然来られた家族でも昼食を共にしてもらうなど、家族を常に温かく迎え入れ要望を聞いたり意見交換をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は通常殆んど全日ホームに居り、必要に応じ職員とミーティングを行っている。 即決で意見を反映させている。	職員は常に自分で考え、自分で判断して行動することを基本にしており、困った時にはまず職員同士が相談して決定、意見反映をしている。代表者も介護に携わっており、職員会議は特に開催せず連絡帳で意見交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ、職員配置を増加したり、入居者の体調不良時には、代表者が泊まりこむ・職員の増員など、万全の体制をとっている。 毎年定期昇給。有給休暇の完全取得。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の定例の研究会や、管理者講習、他ホームでの研修の実施している。 他の介護施設職員を実習生として受入れる等、相互研修も取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会の役員。 他のホームとも職員が相互訪問し、他のホームのよさを積極的に取り入れている。 各種講習会講師として、交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	レモンの里では、個別対応が基本であり、個人の希望を叶える事が『元気の源泉』と考えている。 家族との希望のすり合わせも大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望・本人の希望を徹底的に聞き、帰宅願望時の対応など、安全だけにとらわれるのではなく、人間として生きる希望を実現する努力を続けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応時から、本人と家族の希望を叶えることを大切にし、それを実現している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事準備など自分の出来ることは自分でされる。 本人の希望を重視、自己実現に努めた。 結果として、自然な形での喜怒哀楽や、互いに教えあう関係が出来た。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に一切制限を加えず、自由な家族関係を重視している。 外出・長距離旅行にも家族旅行という性格を持たせ、家族だけでは実現できない関係を構築してきた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区老人会出席・祭礼参加。 家族や親戚・旧知の方々の来園など積極的に行っている。 近隣飲食店・商店などに協力依頼をしている。	個室に電話を引いて外部との連絡をとる方もあるが、入居者同士の関係づくりや近所の方との関係継続など、新しい馴染みの関係づくりの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が多くの、散歩・外出・レクなどの時に互いに助け合う姿も見られる。 規則・きまりで生活するのではなく、マナーで生活することを重視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去4年で5名の方の葬儀をホームで執り行った。 その後、毎年合同慰霊祭を行っている。家族の方はボランティアとして参画している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の都合で考えず、本人の意向を大切にしている。 回想法と未来法の活用により、希望を持ち、アクティブな行動につなげている。(旅行・食事・コンサート等)	回想法で知り得た情報から、本人の希望や目標に向かって行動が起こせるように体力復帰のリハビリに努め、富士山麓まで行く旅行を実現した方もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取り、日常生活の中で把握している。 家族との旅行や会話の中などで本人や家族が昔のことを思い出し、思いがけない経歴などを聞かせていただくことがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者は、あくまでも個人として過ごしていただくこととし、自由行動を原則としている。医師・職員・家族とが話し合い、総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・医師などの関係者と話し合い、ミーティングを通じ自由な意見を集約して介護計画を作成している。 介護計画は、臨機応変に変更できるようにしている。	墓参りや誕生祝いなど大きなことから小さなことまで、本人のやりたいことで笑顔がでるような介護計画をたて、職員と家族が支援する体制を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別介護記録に記入し、変化に即時対応している。 介護記録は変化が良くわかるように記入方法を工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームという、小回りの効く施設であるので、外出・体調変化・暮らしぶりなどを柔軟に支援している。 近隣・ボランティア・家族の参加を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々の参加も多い。 神社・保育園・消防・リージョンプラザ・県文化会館・三重大学とも協力して支援に当たっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を入れて、内科：生協病院・川浪内科。 整形：村島整形・生協病院・永井病院・林整形など、複数の診療機関で受診をしている。 職員（責任者）が受診に付き添う。	それぞれの利用者のかかりつけ医の受診には代表者が付き添い家族に報告しているが、毎日近所の協力医の訪問もあり、日々の体調管理や退院予後についても医療支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの川浪Dr・いのうえ心身クリニックDrとも協働し、入院相談や、時には点滴治療も受けている。 過去6名の方の、レモンの里内での看取りにご協力いただいた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折時には、毎日職員・家族が付添、早期退院する体制を取った。 その結果、認知症の進行を抑えられ、術後9日で退院し、50日後には富士宮市の墓参に出かけることが出来た。（86才 自動車利用・自力歩行）		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に出来るだけ入院せずに最期を迎えられるよう、医師・看護師と常に話しあっている。 良い最期を迎えるためには、平素の健康生活が大切と考え、ケアに当たっている。 ご家族の協力で、6名の看取りを行った。	最後まで人として人生を全うし、穏やかな死を迎えられることを看取り方針として関係者全員が共有し、日々の生活のあり方を常に話し合いながら終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間で応急手当が出来る。（受講済み） また、職員同士で日常的に話し合い、訓練も行っている。 心筋梗塞の発生時にも、適切な素早い対応で後遺症が残らず回復された。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急避難用にビニールハウスを設置。 避難場所・避難経路も確認している。 正職員5名が500メートル圏内に居住し、緊急対応体制をとっている。 近隣の協力も得られる。	津波など大災害時には避難場所として、近隣の高齢者住宅へ避難できる協力体制を整えている。また、スプリンクラーの設置により火災対応ができるようにするなど、設備面でも充実させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個別の介助を前提とし、トイレ誘導時はできるだけ目を合わせて小声で話しかけるようにしている。	大声を出すなど困った行動をとられる時には、手紙形式にして読んでもらうことで、本人の尊厳を傷つけずに理解を求める対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コンサート、北海道・沖縄・旧満州・奈良・伊勢神宮・オランダ・北京・ロンドン・シンガポールなど随時外出。（職員・家族・ボランティアの同行）バリの孫の結婚式参加など。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を定めていない。 散歩・外出・家族旅行・家族との個別外食・喫茶店・歌・手芸・草取り・ゴミ出しなど仕事や遊びを取り入れている。 来客の見送り・出迎えなども行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	大多数が訪問理美容（サナエ美容室）を利用、1名がなじみの店に行っている。 染髪・爪切りなども実施。 外出の機会を多くし、身だしなみに気をつけるように仕向けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買出し、下ごしらえ、準備など。 上げ膳・下げ膳も出来る人は自分で運んでいる。 調理する鮮魚・野菜・肉類をじかに見てもらい、食事意欲の喚起にもつなげている。 職員と同じ食事をとっている。	セルフサービスでお膳を運ぶなど、出来る力を失わないような支援を工夫しながら、時には寒ブリ1尾を利用者の目の前で調理したり、野菜類の下ごしらえを利用者と共にして季節感を重視した取り組みもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・バランスに配慮しつつ、良質で食事意欲を高めるような食事作りをしている。 現在でも全員が箸を使って食事をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後洗面所へ誘導し、口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポータブルトイレ1名使用しているが、特殊汚物袋を使用して、居室の便臭がなく、家族面会時にも快適になっている。 日中は全員がトイレを使用し、自立を図っている。	病院から直接入居し、垂れ流し状態だった方を、本人・職員・家族で未来法を活用して目標を作り、トイレでの自立排泄まで復帰した実績もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が精神状況の不穏や帰宅願望に繋がれることを理解している。 水分摂取を心がけ、魚・野菜・肉を豊富にした食事をしている。 散歩や日光浴にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴とし、一人ひとりお湯を替えている。 入浴時間や回数は臨機応変としている。 職員は大変だが、ゆったりと入浴を楽しんでいただいている。	一人ひとり湯を入れ替え掃除をしたうえで、ゆったりと新湯に入浴できるようにしている。 一人が週3回は入浴するように配慮しているが、緊急必要時には臨機応変に対応支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就眠時間・起床時間は自由になっている。 日中気分よく過ごされると夜間安眠される。 居室内温度も、その日によって外気温とすり合わせて調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の功罪について理解しており、精神科・内科医と常に相談し、薬の用法を細かく調整している。 減薬に成功している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族旅行・家族との個別外食・喫茶店・買い物・ドライブ・歌・手芸・草取り・ゴミ出しなど仕事や遊びを取り入れている。見送り・出迎えも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	無断外出・喫茶店・買い物・家族との外出・ボランティアとの外出・ガーデンの散策・帰宅・宿泊など多様に対処している。（海外旅行・祭礼・コンサート）	日常的な散歩の他に、海外での孫の結婚式への参列や富士山麓への旅行など、一人ひとりの想いや希望に沿った外出の付き添い支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により、小額の金銭を持っている。これは特に職員が管理せず、必要に応じ補充している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話のある方3名。家族・友人に電話している。 年賀状作成支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花・観葉植物類が豊富。 雑然とした中でも季節感を味わえる。 天窓採光をしている。 脱衣所には、洗濯機・汚物流し・消耗品の戸棚などが無く、落ち着いて寛げるようになっている。	テーブルを口の字に囲み、机には様々な本を並べ置いてプライベート空間を確保したり、季節の花や観葉植物、金魚鉢、インコの鳥かごなども置かれ、家庭のリビングと同じような空間を作り居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキ・ガーデンにも他の人と離れて過ごしたり、少人数で会話できる場所がある。 ホールの机も距離感を持って配置している。 ビニールハウス内もティータイムのくつろぎの場になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みで、自由に使用している。 壁に絵画や写真を配置し、筆筒・ドレッサーなどの調度品も持ち込んでいる。 5名が木製のベッドを使用している。施設を感じさせない居室づくりをしている。	本が好きな方は本をソファの上に山積みし、ぬいぐるみの好きな方はぬいぐるみを積んでいるなど、一人ひとりの好みと思いを活かした部屋作りをして落ち着いて過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関のスロープを廃し、上がり框の段差を設け感覚的に安定させた。さらに、手すりを設置し、自力で容易に昇降が出来るようにした。		